



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



県名と県庁所在地名（の違い）

県名と県庁所在地名が同じ県と、同じでない県があるのに疑問を持ったことはないだろうか。以前、調べてみたことがあるが、これは明治新政府の「（一種の）嫌がらせ」政策によるものだった。

1871 年（明治 4 年）7 月、明治維新の最大の改革ともいべき廃藩置県により、藩は県となり、3 府（東京、京都、大阪）302 県になった。同年 11 月には、302 県が 72 県に統合され、1888 年には現在の 43 県になった。

県名と県庁所在地名が同じ県は、戊辰戦争のとき新政府側に味方した藩、同じでない県は、新政府に敵対した藩だ。1871 年 11 月の大統合の際、密かに新政府に敵対した県の県名変更が行なわれた。たとえば大藩といえども、その名前は一方的に消され、元の名より格下の郡名が、県名にされた。例えば、仙台藩は仙台県ではなく宮城県、水戸藩は茨城県、長岡藩は新潟県、高松藩は香川県などになったのである。つまり、県名が県庁所在地より格下の郡名だと幕府側、県名と県庁所在地が同じだと新政府側ということになる。

ただし例外もある。佐倉藩は幕府側だったにもかかわらず県名と県庁所在地が同じ「千葉」だ。しかし、「佐倉」という名称は消え、「千葉」はそれより格下の郡名なので、明治政府の「嫌がらせ」は成功している。同じようなことは弘前藩にも言える。県名と県庁所在地は同じだが、弘前より格下の郡名「青森」である。

こうした「嫌がらせ」を考案したのは、当時府県監督責任者の井上馨（長州藩）。そして、この「嫌がらせ」政策に上司である大久保利通（薩摩藩）が同意したのである。

（注）司馬遼太郎も「街道を行く(3)」で次のように書いている。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

・明治政府がこんにちの都道府県をつくるとき、どの土地が官軍に属し、どの土地が佐幕もしくは日和見であったかということの後世にわかるように烙印を押した。その藩都(県庁所在地)の名称がそのまま県名になっている県が、官軍側である。

五重塔は1階建て？

世界最古の木造建築として知られる法隆寺の五重塔(創建は607年)。外観は5階建てに見えるが、屋根を5つ積み重ねた「1階建て」の平屋の塔である。一般の木造建築にある大黒柱はなく、「心柱」と呼ばれる塔の中心を貫く柱があり、一番上の屋根に接しているだけだ。1階とみられる部分には床がある造りになっているが、2重目より上は単なる屋根がついた複雑な木組みの構造物にすぎない。

なお、五重塔は仏舎利(釈迦の遺骨)を祀るために造られた仏塔の1形式であり、楼閣形状の五重の屋根を持つものをいう。国宝に指定されている木造の五重塔は奈良興福寺、京都醍醐寺など全国に11あるが、群を抜いて長い歴史を持っているのが法隆寺の五重塔である。

(追記)法隆寺の五重塔にはもう一つ秘密がある。それは写真に見られるように屋根が6層になっていること。実は一番下の屋根は裳階(もこし)といい、奈良時代に付け足されたもの。裳階は建物を風雨から守るとともに、外観を美しく見せる効果もある。



・写真は法隆寺の五重塔(Wikipediaより)

表彰状にはなぜ句読点がないのか

表彰状や卒業証書には句読点を使わないのがルールである。現在、文章には句読点を使うのが一般的であるが、賞状等に句読点を使わないのは相手に敬意を表する意味がある。

本来、日本には句読点を使う文化はなかったのだが、明治20年代頃から「どんな人にも読みやすいように」という目的で使われるようになったのだ。もともと一定の教養のある人であれば句読点がなくとも理解できるという考え方であり、読みやすいように句読点をつけるという気遣いは、逆に相手に失礼になってしまうという意を含んでいる。表彰状等には相手に敬意を払うためにも句読点を使わないのが正しいといえる。

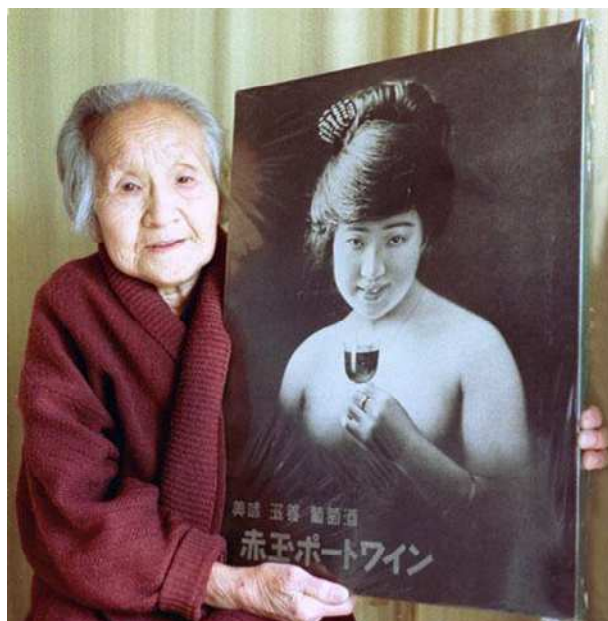
年賀状にも句読点をつけないのがマナーとなっている。『明けましておめでとうございます』というように句読点は使わないのが一般的である。



赤玉ポートワイン伝説のポスター(とご本人)

1922 年(大正 11 年)、当時の寿屋(現サントリー)が「日本人の舌に合うワインを」と今の会社の原点となるワインを発売。広告界の鬼才といわれた片岡敏郎氏が赤玉ポートワインを売り込むために、歌劇女優だった松島栄美子さん(当時 30 歳で既婚)をモデルとして起用、日本初のヌードポスターとなった。その結果、寿屋と赤玉ポートワインの名前は全国に知れ渡り、ドイツで開かれた世界ポスター品評会で最優秀の荣誉に輝いた。

写真は 1983 年(昭和 58 年)3 月に撮影されたもの。松島さんはこの時 90 歳、翌月亡くなっている。



カーディガン(の由来)

クリミア戦争(1853～1856 年)のバラクラヴァの戦いにおいて、第 7 代カーディガン伯爵率いるイギリスの軽騎兵軍 673 名がロシア軍陣地に正面から突撃し、負傷者 278 名という大損害を被った。この戦いは「軽騎兵旅団の突撃」と呼ばれ、無謀ではあるが勇敢でもあったと評価され、後年多くの絵画や音楽、文学の創作の題材となっている。

この戦いで負傷した兵士のために、素早く着られるようにカーディガン伯爵が考案したのが「カーディガン」である。保温効果があるうえ、前開きのため軍服の上から重ね着することもできたという。